

55周年控えシングル第1弾



1年を大切に挑戦新た

来年の6月20日にデビュー55周年を迎える。が、早くも1年前の今月から「アニバーサリーイヤー」に突入。さまざまなキャンペーンが予定されている。

もともと当人は「5年、10年、15年という区切りを大きな節目と言いますが、そういうことは感じませんね」とあまり気にしていない様子。

むしろ、意識してきたのは1年という単位。自分自身に1年ごとに課題を与えてきたという。自分の新たな

面を引き出すためです。そうして1年1年を大切に過ごしています」

暹羅きの苦勞人で知られる。デビューから毎年、順調にシングルを発売していたのに、昭和40年代後半から50年代半ばにかけてほとんどシングルを発売できない時期もあった。

不遇の時代、地方の夏祭りのやぐらの上で歌ったこともある。ところが、そんな時ですら、「毎日、多く

の人に自分の歌を聞いてもらえてうれしかった。プロとして幸せだと思いました」と振り返る。

こうした、ボジティブ・シンキングで苦難を乗り切り「女の港」(58年)が初の大ヒット。デビューから22年たったところやNHKの紅白歌合戦にも出場。大物歌手の仲間入りを果たした。

4月に発売されたアニバーサリーイヤー第1弾「母なる海」も、新たな挑戦だという。

演歌歌手 大月 みやこ

おおつき・みやこ 昭和21年、大阪府八尾市生まれ。39年にキングレコードから「母恋三味線」でデビュー。62年「女の駅」で第29回日本レコード大賞最優秀歌唱賞、平成4年「白い海峡」で第34回日本レコード大賞を受賞。NHK紅白歌合戦には昭和61年に「女の港」(レコードの発売は昭和58年)で初出場。以来、平成8年の「夢日記」まで10回出場。平成28年に文化庁長官表彰、29年には春の叙勲で旭日小綬章を受章。



アニバーサリーイヤー第1弾
シングル「母なる海」

「これまでのような女心の切なさやいらしきとは少し違う題材を初めて与えられました。年月を重ね、ふと立ち止まって、自分の生き方は間違っていないか、かを望郷の念とともに思い返すという内容の歌です。スケール感の大きなメロディに乗せ、こうした思いを「母なる海」に集約させました。

周囲のスタッフは、つきあいが30年以上という人も多い。スタッフや支えてくれる人々からの提案は、これまで拒むことなく受け入れ、挑戦してきました。

「今のスタッフは、私自身が気づかない私の魅力や、足りない部分を見つけてくれます。だから彼らの挑戦は必ず受けて立ちます」

約20年間、ほぼ毎年、東京、名古屋、大阪、京都で行ってきた舞台も、スタッフからの「挑戦状」だった。「歌を軸に、表現者に徹することができたのも、この挑戦を受けて立ったから」と笑う。

ファンもそのことをよく知っている。「長くファンでいてくださる人たちに、私のどこが好きか尋ねると『歌だけでなく、生き方が好きです。フアイトが湧いてきます』とおっしゃるのを聞いて、

「一線では活躍を続ける秘訣を尋ねると、『今日起きたことは翌日に持ち越さず、その日のうちに全部忘れることですね』。カラリと笑った。

文・岡田敏一
写真・志儀駒貴

